

〈国語〉

報告する文章を書く力を育む授業づくり

——視点を明確にした振り返りと交流活動を通して（第5学年）——

八重瀬町立新城小学校教諭 伊 集 旭 寿

I テーマ設定の理由

近年、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会環境も急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。このような中で学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極めて再構成するなどして新たな価値につなげていくことができるようにすることが求められている。しかし、全国学力・学習状況調査によると、複数の資料の内容を関係付けて理解したり、表現したりすることに課題があるという結果が示された。『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（以下『解説国語編』）では、「情報の扱い方に関する事項」が新設され「自分の持つ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながる」ことが示されている。

現任校では過去7年間、校内研究を国語科に絞り、学習用語や語彙表の作成・活用等、授業スタイルの構築に努めてきた。その結果、全国学力・学習状況調査において5年間全国平均を上回り、成果を残すことができた。学習中には、児童に思考する時間を確保することで、児童一人一人が自分の考えを持ち、学習用語や語彙表を活用しながら伝えることができるようになってきた。しかし、それは一方的に自分の考えを発表するだけで、考えに対して意見を伝え合う活動には至らなかった。令和3年度の沖縄県学力到達度調査では、5年生の平均正答率が県平均に届かず、課題が残った。特に「書くこと」に関する領域では、全問とも県平均を下回り、14.9ポイントも差がひらいた問題もあり課題が残った。どの問題も無解答は少ないものの、自分の考えを文章にして書き表す設問の誤答が多かった。これまで担当した学級の児童も、文章を書くことを苦手としている姿が多く見られた。なかでも、資料を活用して文章を書く学習においては、自分の考えと資料の関連性を意識して書き表すまでには至らなかった。さらに文章を構成する際も、筋道の通った文章になっているのか、互いに読み合って確認せずに学習を進め、文章全体の構成や展開を考えることにも課題が残った。それは、自身の指導において「関連資料を収集する」「文章を構成する」「考えを記述する」のそれぞれの活動を切り離して授業を展開していたことで、収集した資料と自分の考えを結び付け、目的や相手に応じて複数の資料を取捨選択して書くという指導が不十分であったと考える。

そこで、本研究では「書くこと」の領域で、資料を活用し調べたことをまとめて報告する文章を書く単元において、児童が複数の資料から書き表したい内容に合った資料を用いて、文章を書くことができるように授業改善を図る。そのために「視点を明確にした振り返り」を、単元を通して計画的に位置付け、取捨選択した資料が書き表したい内容の根拠になっているか、文章の書き表し方は相手に分かりやすく伝わるような構成になっているか等を確認できるようにする。振り返りの後には「交流活動」を行い、友達の意見等も取り入れて、資料を見直したり内容の検討をしたりして自分の書き表し方を修正しながら文章をより良くしていけるようにする。この2つの手立てを講じることで、自分の考えと関連付けられた資料を用いて調べたことを報告する文章を書く力が育むことができると考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

教材文「環境問題について報告しよう」の学習において、視点を明確にした振り返りと、それを基にした交流活動を行うことで、報告する文章を書く力が育成されるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 「報告する文章を書く力」について

(1) 「報告する」とは

『解説国語編』では報告と記録について、「報告とは、見たことや聞いたことなどの事実や出来事を伝えること」「記録とは、事実や事柄、経験したことや見聞きしたことなどについて、メモを取ったり、文章として正確に書き残したりすること」と示されている。吉田裕久（2018）は「報告文とは、特定の内容（知識・情報・調査結果など）を、特定の相手に知らせることを目的として『書き伝える』文章のこと」「記録文は、即座の伝達を目的とせず、自らの心覚えとして『書き留められた』メモ類、あるいは後日の利用に備えて『書き残された文章』のこと」と述べている。これらのことから、報告することと記録することには違いがあり、報告することには「相手に伝える」という目的があることが分かる。

(2) 「報告する文章を書く」とは

『解説国語編』には、「書くこと」の学習過程が、8つ挙げられている（表1）。その中でも本研究においては、「④構成の検討」と「⑤考えの形成」「⑥記述」に着目したい。なぜなら、④の「イ筋道の通った」とは、学年の目標（2）「筋道立てて考える力」の育成を受けて今回の改訂で明記された部分でもあり、重要な指導事項であると考えられるからである。

また、⑤及び⑥は、第4学年までにはない「エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」が組み込まれている。引用や図表を用いることは自分の考えや表現の根拠となり、それを活用することで、より相手に分かりやすく伝わる文章になると考える。

そこで本研究では、④⑤⑥を基に「自分が調べて分かったことを、相手に分かりやすく伝わるように、文章全体の構成や展開を考えて書かれている文章」と、「自分が書き表したい内容の根拠となる資料を活用している」ことが書き表せられると「報告する文章を書くことができた」と捉える。

2 「視点を明確にした振り返り」について

沖縄県教育委員会『令和4年度版「問い」が生まれる授業サポートガイド』（以下『問サポ』）では、振り返りの意義を「解決方法や学んだことに自信をもったり、曖昧な点が明確になったりする。」「考え方や知識・技能等の学習内容の定着が図られる。」等と挙げている。また、振り返りの指導のポイントの一つとして、「振り返る視点を児童生徒に示すこと」とある。細川太輔・成家雅史（2019）は、国語科における振り返りについて「自分にとって適切な学習プロセスを作り出すことができるようになる」と述べている。これらのことから、振り返りは児童自身の学習改善において、有効な手立てであると考えられる。

本研究の重点指導事項は表1にある第5学年及び第6学年のイとエである。『解説国語編』では、イの留意点として「文章全体の構成を考える際には、それぞれの段落の内容としてどのようなことを書けばよいのかを考えたり、自分の考えを一貫して述べたりすることなどに注意したりすること」「読み手が考えを理解しやすいように書き方を工夫すること」と示されている。さらにエで

表1 小学校国語科「思考力、判断力、表現力等」
「書くこと」の指導事項（番号は筆者挿入）

学習過程	(小) 第5学年及び第6学年
	(1) 書くことに関する次の事項を身に付けること
①題材の設定	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
②情報収集	
③内容の検討	
④構成の検討	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
⑤考えの形成	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
⑥記述	
⑦推敲	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。
⑧共有	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

は「引用する場合は、まず何のために引用するのかという目的を明確にすること」「引用した部分と自分との考えとの関係などを明確にすることなどに注意すること」と示されている。これら2つの指導事項を児童に捉えさせるためには注意する点が多く、教師の指導の際はもちろんだが、児童が活動する中でも注意する点が多くなる。そこで本研究では、「報告する文章を書く力」を効果的に習得できるように、注意する点を焦点化して振り返りを行う。

これまでの自身の指導は「関連資料を収集する」「文章を構成する」「考えを記述する」のそれぞれの活動を切り離して授業を展開していたため、児童も自分の考えと関連付けられた資料を的確に用いて、相手に分かりやすく伝わるような文章構成で書くことに課題があった。この課題解決のために、図1のように本単元の学習内容に合わせた「視点を明確にした振り返り」を計画的に位置付ける。そして、児童が「調べたことを報告する文章」を書く際に留意することを、文章が完成するまでの間に繰り返し確認できるようにする。この手立てにより、振り返るポイントが焦点化され、その後の学習活動につながるか、書き表したい内容に合っているかを分析することができるようになると考える。さらに、項目の2、3、4のように、段落の内容に沿った振り返りの視点を、論の進め方の順序と同様に与えることにより、筋道の通った文章が書けるようになると思う。振り返る場面で重視したいのは、資料収集後の文章構成の検討段階と、考えの形成後の記述前の段階である。この場面で重点的に振り返ることにより、児童自身が活動を切り離さずに「報告する文章を書く」というゴールに向かって、文章全体の構成や展開を考えていくことができると考える。このように、児童自ら視点に沿って振り返り、文章を見直すことによって「報告する文章を書く」ことができると考える。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
相手に分かりやすい表現や文章構成になっている。	適切な接続語を使って書いている。	資料は一目でわかりやすくなっている。	図や表があることで説明が分かりやすくなっている。	資料から分かることと、考えたことが書かれている。	「問題に対する対策」が書かれている。	「問題が起る原因」が書かれている。	「何が問題なのか」が書かれている。	調べて報告したいことが明確になっている。	振り返りの視点(◎○△)
									時
									①
									⑤
									⑧

図1 視点を明確にした振り返り

3 「交流活動」について

三浦剛(2021)は、交流することの良さについて、「他者が持っている考えにふれて、自分にはない視点を得たり、新たな発見をしたりすること」と述べている。また、交流の効果について、5つの機能を図2のようにまとめている。さらに、水戸部修治・吉田裕久(2017)は文章を書く際には、「書き手の立場だけでなく、読み手の視点に立った推敲も大切である。そのため自己評価に加えて相互評価も積極的に取り入れ、他者からの指摘や助言を推敲に生かしていけるようにしたい。」と述べている。このように、相手に伝わりやすい文章を書くためには交流活動が効果的であることが分かる。

①確認する	誰が、どのような考えをもっているのかを把握する。また、自分自身の考えも、他者と交流することで初めて意識されるようになる。
②共有する	それぞれがもっている考えを分け合い、共有化する。多様な考え方があることを知り、交流することの面白さを味わうこともできる。
③活性を促す	思考の活性を促し、確かな考えをもてるようにする。どう考えたらよいか分からない時に周囲の友達と話し合うことでヒントを得ることができる。
④修正する	課題に正対した考えが持っていなかったり、間違った捉え方をしてしまった時に、軌道修正する。自分の中では間違っていないと感じていたとしても、他者の意見や考えに触れることで、その間違いに気づき、直すこともある。また、間違っていることを自覚していたとしても、どのように修正すればよいか分からない場合には、交流を通して相手からアドバイスをもらうことで修正することができる。
⑤発見する	自分にはない考え方や視点を得ることで、自分の視野を広げる。自分にはない考えを友達の考えの中に見出していくことで、他者理解を促すこともできる。

図2 交流の機能 三浦剛(2021) 参考

そこで本研究では、視点を明確にした振り返りを基に、交流活動を取り入れる。しかし、本校の児童は課題で挙げた通り、何の手立てもないままに交流活動を行うと単なる一方向の発表にとどまり、確認したいことを伝え合うことができない。それは、児童の伝える手段が不足していたり、どのように伝えたらいいのか頭の中だけで考えるのが難しかったりすることが原因として考

えられる。そこで、図3のような思考ツールを活用して思考が可視化された状態で交流活動ができるようにする。この思考ツールは、資料の活用の仕方や文章全体の構成を一目で確認できるようになっている。図4には、構成メモの例を挙げており、図3と比べてみると、文章の構成や展開が同じような順序で並べられていることがわかる。図4の構成メモでも、筋道の通った文章になっているかの確かめを可視化できるが、図3ではそれだけでなく、収集した関連資料を当てはめると、文章やその構成との関連を見比べることもできる。このように思考ツールを活用すると、交流活動において児童は互いに伝え合うことが容易になり、友達の意見等も取り入れて、資料を見直したり内容の検討をしたりすることができるように考える。

交流の場面は単元を通して2回設定する。1回目は資料収集後の構成の検討段階である。そこでは図2の①と③を活用し、同じテーマの児童どうしでグループとなり、自分が調べたことや資料が、書き表したいことと合っているかについて交流する。2回目は図2の③と④を活用し、考えの記述前に文章の構成が筋道立っているかについて確かめ合う。この場面では調べたテーマが違う者どうしても交流することにより、初見の相手にも伝わる内容になっているのかを確かめ合えるように交流の工夫を図る。

このように、「視点を明確にした振り返り」を「交流活動」と合わせて取り入れることで、個人だけで書き表し方を検討・確認するよりも、互いに資料の取捨選択の仕方や、文章構成や展開に対して指摘し合って改善したり、友達のアイデアを取り入れたりするなど、より良い書き表し方を見出すことができると考える。また、思考ツールにまとめられた内容は、児童一人一人の学びの足跡にもなるため、これを基に友達や教師の意見・アドバイスを受けて、より効果的な資料を選択したり、内容を検討したりと書き表し方を見直しているかを見取っていくこととする。

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 「資料を活用して調べたことを報告する文章を書こう」

教材名 「環境問題について報告しよう」(東京書籍5年)

2 単元の目標

(1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。

【知識及び技能(2)ア】

(2) 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。

【思考力、判断力、表現力等B(1)イ】

(3) 引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等B(1)エ】

(4) 文章全体の構成や展開を考え、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、書き表し方を工夫して報告する文章を書こうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

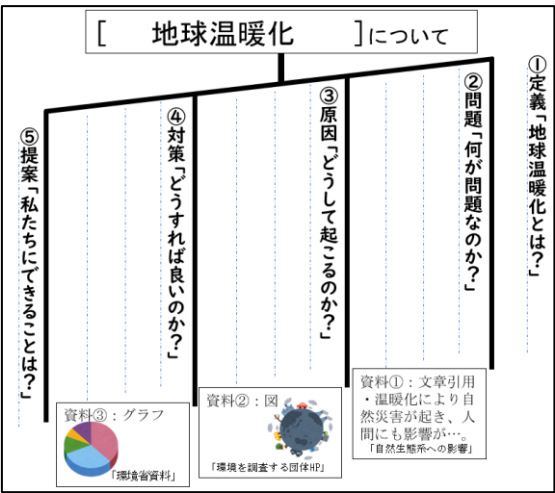


図3 思考ツール(例)

まとめ	くわしい説明	話題の提示
ふだんの生活の中から、できることを探して、取り組んでいこう。『提案』	・地球温暖化はなぜ起こるのか。『原因』 ・温室効果ガスのはたらきの説明(図)。温室効果ガスの増加が原因の一つと考えられる。 ・どうすれば地球温暖化を防げるのか。『対策』 ・温室効果ガスのほとんどは二酸化炭素(グラフ)。 ・電気のおだづかいをなくしたり、ごみを減らしたりすると物をもやすときに出る二酸化炭素の発生をおさえられる。	・地球温暖化について、読み手に問いかける。 ・地球温暖化とは何か。『定義』

図4 構成メモ(例)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解し、文章の中で使っている。【(2)ア】	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。【B(1)イ】 ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【B(1)エ】	①文章全体の構成や展開を考え、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、書き表し方を工夫して報告する文章を書こうとしている。

4 単元の指導と評価計画

時	学習目標		○学習活動	・指導上の留意点	評価規準(評価方法等)
第一次	1	並行読書 自分が調べたい環境問題についての本を読む	○報告する文章を書く学習に向けての学習課題を設定し、身に付けたい力を確認し、学習の見通しをもつ。 ○書く目的や相手を確認する。 ○2つのモデル文から、資料の効果について考える。	・町役場や公民館に掲示し、発信することを伝え、相手や目的意識を持ち活動に取り組めるようにする。 ・資料がある文章とない文章を対比させることにより、資料の効果について考えられるようにする。	【知・技①】 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 (発言・調査メモ・思考ツール・行動観察・タブレット写真データ)
			○様々な分野から自分が興味のある分野を選ぶために資料を読む。	・基本的なテーマを提示し、児童自身が興味のある分野を探れるようにする。	
第二次	2	並行読書 自分が調べたい環境問題についての本を読む	○様々な環境問題から、自分の調べる分野を決定する。 ○調べて分かったことを調査メモや思考ツールに記入する。	・引用する文章や資料は出典をはっきりさせておくよう指導する。(タブレットの活用) ・どんなことを調べればいいのかを考えさせ、それが文章構成にもつながることに気付けるようにする。	【知・技①】 原因と結果など情報と情報との関係について理解して文章の中で使っている。 (思考ツール・文章) 【思・判・表①】 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(発言・思考ツール・文章) 【思・判・表②】 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(思考ツール・行動観察・文章) 【態度①】 文章全体の構成や展開を考え、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、書き表し方を工夫して報告する文章を書こうとしている。(行動観察・文章)
			○知りたいことに関する情報や資料を、本やインターネットを活用して集める。	・授業内だけでは集められない資料などを本やインターネットなどから収集する時間を設ける。	
	3		○より良い書き表し方のために、複数の資料(図・グラフ・表・写真)からどれが効果的か考える。 ○自分の収集した資料はどれが効果的か、取捨選択したものを振り返る。 ○振り返りを基に友達と <u>交流</u> し、資料の見直しをする。	・モデル文と複数の資料を対応させて、実際に取捨選択する方法を全体で確かめる。 ・「取捨選択した資料が書き表したい内容の根拠になっているか」視点を明確にして振り返らせ、友達と確認するように指導する。 ・思考ツールを活用して自分の考えが可視化されるようにする。	
	4		○前時を受けて、資料収集の修正または再収集を行う。 ○資料の読み方(わかること)を再度確認する。	・資料からわかることを書き表すことが、報告する文章に生かされることを気付けるように指導する。	
	5		○調べたことを読み手に報告するために、文章全体の構成をどのようにするのかを考え、思考ツールに整理する。	・バッドモデルを掲示することで、「はじめ」「中」「終わり」の各部分に書く内容の大体と適切な資料の配置の仕方について気付けるようにする。 ・内容のキーワードになる言葉を箇条書きで簡単に書けるように指導する。	
	6		○自分の思考ツールを見直し、相手に伝わる文章構成や資料の提示になっているか友達と <u>交流</u> し確かめる。 ○文章全体の構成や展開について見直す。	・視点を明確にして振り返り、互いに評価し合うことで、読み手に伝わる構成や資料の提示になっているかを確認できるようにする。 ・適切な接続語の確認も合わせて確認できるようにする。	
	7		○取捨選択した資料と思考ツールに基づいて報告する文章を書く。 ○視点に沿って振り返り、推敲する。	・書き表し方の工夫などについてチェックする視点を提示し、視点に沿って書き表したり推敲したりできるようにする。	
第三次	8		○文章を読み合い、良い点を共有して学習全体を振り返る。 ○報告する文章を書くために、どのように書き表し方を工夫したのかを振り返る。	・書き表し方の良さを伝え合い、自分の文章の良い点に気付けるようにする。	

5 本時の学習(6／8時)

(1) 本時の目標

交流活動を通して文章全体の構成や展開について互いの考えを確かめ合うことができる。
筋道の通った文章にするための、資料の活用方法や構成などを見直すことができる。

(2) 本時の展開

過程	○学習活動 ・ 内容 □主な発問等	◇指導上の留意点 C：予想される児童の反応	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しを持つ。 ○本時のめあてを立てる。	◇視点を明確にし、本時がどの振り返りの視点項目と関わるかを確かめる。	
	めあて 相手に伝わりやすい文章構成になっているか、交流して確かめ合い、見直そう		
展開 35分	○筋道の通った文章構成になっているか、児童自身の思考ツールを見て確認する。 □相手に伝わりやすい文章構成にするためには何を確かめると良いですか？ ・説明の順序がわかりやすいか文章構成を確かめる。 ・資料と文章とのつながりを確認する。 ○自分がメモした内容の順序が相手に伝わりやすい文章構成になっているか、交流を通して見直す。 同じテーマ ↓ 違うテーマ の順で視点到に沿って考えを伝え合う。 ○交流で伝え合ったことを基に、資料の活用方法や構成などを見直す。	◇相手意識を持たせたり、資料と関わりを意識させたりと、前時までの学習のポイントを整理しながら確認できるようにする。 C：説明の順序に気を付ける。 C：最初から最後まで自分の伝えたいことが合っているか確かめる。 C：余分な説明は省く。 ◇交流時に相手に説明できるようにしておくことを伝える。 ◇相手に伝わりやすい構成か、分かりやすい説明や資料の活用になっているか等を確認し合えるように、やりとりの例を掲示する。 ◇指摘が注意のみにならないように伝える。 C：海洋汚染の問題点は～でその原因は○○です。原因の説明のところでは、この図を使って海にゴミがたくさん捨てられていることをわかりやすく伝えたいです。 C：この説明は無くても意味は伝わると思うので、省いても良いかなと思います。 C：○○さんから、この説明より、～～という説明をした方が分かりやすいとアドバイスをもらったから、変えてみようかな。	【思・判・表①】 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(発言・思考ツール) 【思・判・表②】 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(思考ツール・行動観察) 【態度①】 文章全体の構成や展開を考え、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、書き表し方を工夫して報告する文章を書こうとしている。(行動観察)
終末 5分	○振り返りを書く。 □交流して確かめられたことはどんなことですか？ ○次時の活動を確認する。	◇めあてに沿って振り返るように伝える。 C：相手に伝わるか不安だったけど、交流して自分の文章構成に自信が持てた。	

IV 仮説の検証

研究仮説に基づき、視点を明確にした振り返りと、それを基にした交流活動が報告する文章を書く力を育むために有効であったか、授業観察や視点を明確にした振り返りシート、思考ツールの記述、交流の様子、文章の記述、アンケート調査から考察を行っていく。

1 「視点を明確にした振り返り」の効果について

本研究において、振り返りは児童が本時の学習のねらいを明確に捉えられるように学習内容に合った視点だけに焦点化した。授業のはじめに全体でその視点を確認し、見通しを持った上で授業終末において本時の学習の振り返りを行った。この流れを、振り返る視点を変えながら計画的に行い、児童が収集・構成・記述という活動を切り離さずに学習のゴールに向かって留意点を繰り返し確認できるようにした。

第1時に「視点を明確にした振り返り」を児童に提示した。そこでは各項目の意味を確認し「資料を活用して、調べたことを相手に分かりやすく報告する文章を書く」という目的意識を持たせた。しかし、調べ学習中に、「どんなことについて調べたら良いのかわからない。」という声が挙がった。学習活動後の児童の振り返りは図5のようになった。そこで第2時では、構成メモの役割も兼ねた思考ツールを活用し、改めて視

点を確認しながら学習を進めた。すると、調べ学習後の児童の振り返り感想において「昨日までは問題に対する原因がわからなかったけど、調べるとわかったので次は対策について調べていきたい。」や「問題や原因が分かりやすくなるような資料をもっと集めたい。」等の記述があり、視点2・3・4において変容が表れた。これらの振り返りの感想や変容から、児童が視点を基に学習を進めている様子が伺える。検証前まで、文章を書く学習では一人で学習を進めることが困難であった児童も、視点に注目することで、どんな内容の文章を書くといいのかについて実際の記

4	3	2	1	
「問題に対する対策」が書けている。	「問題が起こる原因」が書けている。	「何が問題なのか」が書けている。	調べて報告したいことが明確になっている。	振り返りの視点【◎ ○ △】
△	△	○	◎	6/3
◎	◎	◎	◎	6/6

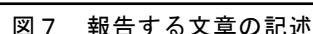
図5 振り返りの記述

さらに、授業導入時のめあての設定の際にも「視点を明確にした振り返り」が活用できた。その場面の発話記録を図6に示した。振り返りの視点を明確にすることで前時までの自己の学習状況を確認するだけでなく、これまでの学習と結びつけながら本時の学習めあてを立てることができていることがわかる。これにより、児童は学習の見通しや意味を把握しやすくなり、活動のつながりを意識しながら、めあての達成に

「視点を明確にした振り返り」には、以上のような効果があった。この明確にした視点を生かして実際に児童が記述した文章を図7に示した。筋道の通った文章構成になることをねらった視点2・3・4・9を基に、児童自身が確かめながら「問題・原因・対策」が記述できていることがわかる。また、説明内容の根拠となる資料の活用をねらった視点5・6・7においては、文章中に資料との関連を表す記述が書かれている。さらに、文章として書き表すには説明が複雑な内容を、図で補って表すことができている。全ての資料で説明の根拠となる図を活用しており、資料を効果的に活用して調べたことを説明することができていることがわかる。

これらのことから、児童自身が「関連資料を収集する」「文章を構成する」「考えを記述する」という活動を切り離さずに「資料を使って、調べたことを報告する文章を書く」というゴールに向かって文章全体の構成や展開を考えていくことができ、振り返りを通して、資料の効果的な活用方法や筋道の通った文章の書き表し方について、繰り返し確認することで、「報告する文章を書く」ことができたと見取れる。

図6 視点からめあてを設定する発話記録



2 「交流活動」の効果について

友達の意見やアドバイスを受けて、より相手に伝わりやすい文章にすることができたか検証する。活動中の様子や、授業後の振り返り、思考ツールをもとに、交流活動を通して「様々な資料から、自分の書き表したい内容に合った効果的な資料を取捨選択しているか」「説明の内容と順序などを見直しているか」の視点で分析した。

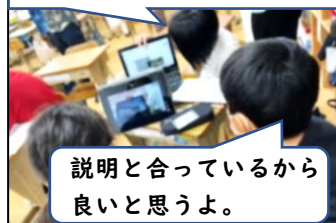
本単元は資料の活用も伴うため、収集した資料を Google Jamboard に貼り付けるようにした。そして、複数の資料から自分の説明に合った資料はどれかを取捨選択し、それを確かめ合うために第3時に1回目の交流活動を3人組で行った(図8)。児童Dの思考ツールへの記入の様子を図9に示した。児童Dは、交流の際に友達から「原因に対しての対策の内容が合わないと思うよ。」という指摘を受けたことにより、筋道立てた文章構成に修正の必要があることに気付いた。それに伴い関連資料も修正が必要であることに気付き、指摘された資料を削除している。後に、修正のため説明内容やそれに合った資料を調べ直し、この修正を生かして文章を書き表すことができた。また、児童Eは「資料にも説明の言葉を付け足すとわかりやすくなりそうだよ。」という指摘により、図10のように自らの言葉で資料の説明を補った。これにより資料が一目で見やすくなり、より効果的な資料の活用となった。

第6時の交流活動2回目では、資料の活用と合わせて文章構成の確認をし合った。その際の児童Fの思考ツールを図11に示した。児童Fは交流を通して自分の説明が上手く相手に伝わらないことを実感し、その原因が説明の順序であることに気付いた。友達からのアドバイスにより、構成の修正を行っている様子が見取れる。記述の際には、修正した構成通りに文章を書き表すことができていた。以上の3人の事後アンケートを分析すると、検証前に比べ交流に対して肯定的にとらえる結果へと変化していた。理由は「アドバイスをもらえるから。」「修正することが見つけられることで、より良い考えや方法になるから。」と、交流活動を通してより良い書き表し方を見出そうとする様子が伺える。

これらの分析から、交流活動を取り入れることにより、個人だけで書き表し方を検討・確認するよりも、互いの資料の取捨選択の仕方や、文章構成や展開に対して指摘し合って改善したり、友達のアイデアを取り入れたりするなどして、より良い書き表し方を見出すことができたと考える。

計画的に設けた交流活動だったが、第4時・第5時で行った「資料の見直し」や「構成の検討」の学習では、児童自身が困ったり、活動が早く終わったりすると、図12のように教師に頼らず児童どうし

私は、この資料を使おうと思います。なぜなら～



説明と合っているから良いと思うよ。

図8 交流活動の様子

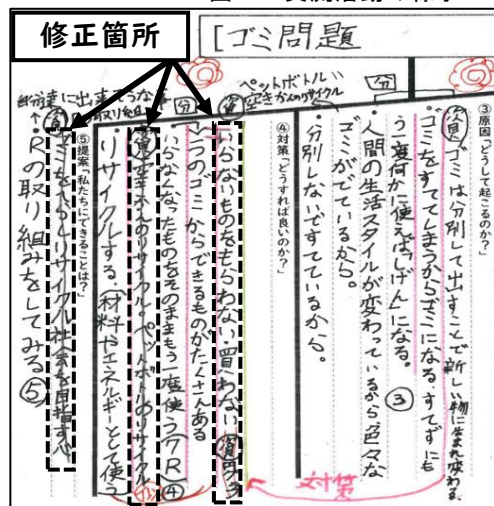


図9 児童Dが交流後に修正した様子



図10 児童Eが説明を付け足した資料

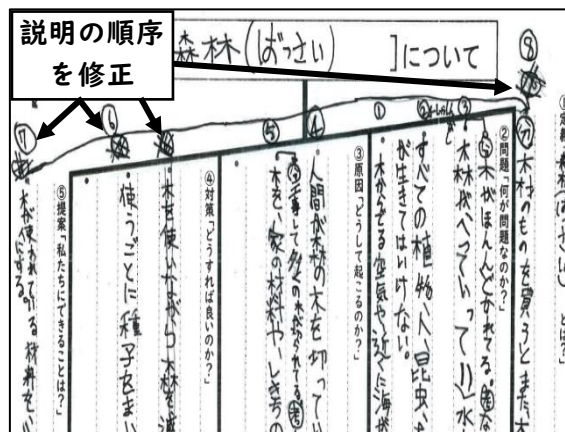


図11 児童Fが交流後に構成を再検討した様子



図12 進んで交流をして確かめる様子

で交流をする場面が見られた。授業後に、児童にその理由を尋ねると「相手に伝わりやすいかどうか、友達に確認した方が良かった。」と交流の効果について実感している様子が伺えた。

3 まとめ

「視点を明確にした振り返り」とそれを基にした「交流活動」を取り入れることで、児童がどの程度、報告する文章が書くことができたのか検証する。第7時に児童が書いた文章を、単元目標(2)の「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。B(1)イ」と(3)「引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。B(1)エ」の視点で分析した。

評価基準に沿って評価を行うと、表2と表3の評価結果となった。2つの項目とも、C評価は0%であり、全ての児童が「報告する文章が書くことができた」ことがわかる。この結果は、前項の「視点を明確にした振り返り」の効果でも挙げた通り、児童自らが振り返りを通して資料の効果的な活用方法や、筋道の通った文章の書き表し方について繰り返し確認することができたから

だと考える。図13に示されているように、振り返りの初めには△と自己評価をしたが、後に○や◎に変化した児童の数は10人(50%)いたことから、その様子を伺うことができる。また、第8時の友達の文章の良い点を見つけ伝え合う活動においても、視点を明確にした振り返りは有効であった。表4のように、児童はこの視点を基に他者の文章を評価し、良い点として付箋紙に書いて伝える姿があった。異なる環境問題の分野を調べた友達が文章を読んでも、伝わりやすい文章となっている様子が伺える。

しかし、この振り返り項目だけでは不十分な場面も見られた。それは、接続に関わる言葉や文末表現、思考に関わる語句等の活用である。視点8の「接続語」や視点9の「相手に分かりやすい表現」を項目として取り上げたが、授業を展開していく際に「どのように説明する文章を書いたら良いかわからない。」という声が出た。そこで、「報告する文章」の特徴に合った文例や接続の言葉を用意してまとめ、活用できるように児童に配布した。文章を

表2 報告する文章の評価基準と評価結果 (N=20)

評価項目	【思考・判断・表現①】「書くこと」において、筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考えている。	児童の割合
評価基準		
A	・資料から収集した情報と、その情報から分かったことが対応しており、「中」において提示する順序をあえて変えたり、問題や原因を複数提示したりして、その環境問題の深刻さを印象付け、全体として筋道の通った構成や展開を考えている。	25%
B	・資料から収集した情報と、その情報から分かったことが対応しており、全体として筋道の通った構成や展開を考えている。	75%
C	・資料から収集した情報と、その情報から分かったことが対応しておらず、全体として筋道の通った構成や展開を考えられていない。	0%

表3 報告する文章の評価基準と評価結果 (N=20)

評価項目	【思考・判断・表現②】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	児童の割合
評価基準		
A	・用意された資料だけでなく、自分で様々な資料を調べて、最適な資料を選び、文章の中で用いることができている。 ・引用した部分や図表を用いた部分と説明する文章の関係だけでなく、自分の考えとの関係も明確にして文章の中で表している。	25%
B	・用意された資料の中から効果的な資料を選び、文章の中で用いることができている。 ・引用した部分や図表を用いた部分と説明する文章との関係などを明確にして、文章の中で表している。	75%
C	・用意された資料の中から効果的な資料を選べず、文章の中で用いることができている。 ・引用や図表を用いた部分と説明する文章との関係などを明確にせず、文章の中で表せていない。	0%

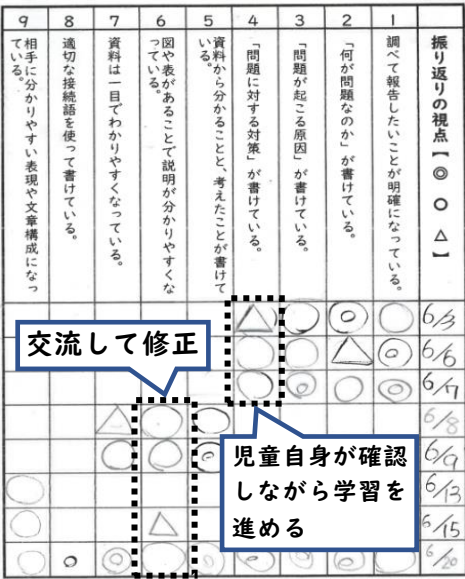


図13 視点を明確にした振り返りの記述

表4 児童の付箋紙への記述内容 (抽出)

児童G	問題に対する自分の考えを書いたり、例えを使っていたりして分かりやすくなっていると思います。
児童H	資料の説明や理由が詳しく書いていて分かりやすいです。
児童I	工場排水やボイ捨て、船から出た油などで川や海が汚れるということが分かったので、ボイ捨てに気を付けたい。

書く際には、児童がそれを参考に書く様子が見られた。

一方で、A評価の児童は2つの項目とも25%おり、その要因としては交流活動によってより良い文章にできないか確認し合い、修正することができたからではないかと考える。実際に児童Dは、表3の評価においてAとなっている。児童Dと同じように、学習始めは自身で良いと思っていたが、交流活動により友達の意見を聞き、再検討が必要だと見直しが図れた児童も複数いた(図13)。図14に示したアンケート

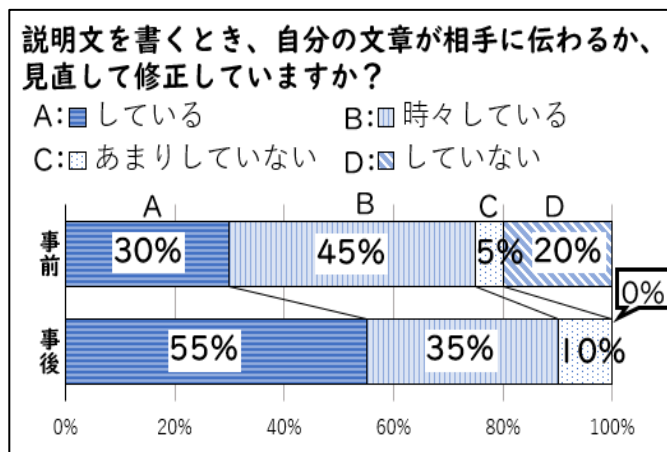


図14 アンケート集計結果 (N=20)

結果によると、「修正している」と回答した児童が25%増えている。また、「全くしない」は20%から0%となり、より良い文章にしようとする姿が多く見られた。この結果が表れたのは、児童が毎時間、視点を明確にした振り返りを行い、活動のつながりを意識しながら思考ツールに自分の考えを記述することで、交流活動時の話し合いもスムーズになり、より主体的な学びへとつながったからではないかと考える。そして、交流活動を通して相手意識も高まり、より相手に伝わりやすい文章にしようとし、見直したり修正したりする児童が増えたと考える。

さらに第6時の、説明の順序や資料の活用方法についての交流活動後の感想では、わかったことの記述だけでなく、「自分の考えだけだと心配だったが自信がついた。」「分かりやすいと言われてうれしかった。」等と記述した児童が35%いた。これは『沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ』の3つの視点の1つ「学び・育ちの実感」も見取することができる記述内容である。互いの文章について指摘し合って改善したり、友達のアイデアを取り入れたりするなど、より良い書き表し方を見出すことを意図した交流活動であったが、児童が学ぶことの意義や価値を実感することができる手段としても有効な手立てであった。

以上のことから、「視点を明確にした振り返り」とそれを基にした「交流活動」を行うことは「報告する文章を書く力」を育むことにおいて有効であったと考えられる。

V 成果と課題

1 成果

- (1) 「視点を明確にした振り返り」を行ったことで、児童が見通しを持ち「情報収集・構成の検討・考えの記述」等の活動を切り離さずに学習を進め、資料の効果的な活用や、筋道の通った文章の書き表し方について考えることができた。
- (2) 「交流活動」を行ったことで、相手に伝わりやすい文章にしようと確かめ合うことができ、より良い文章へと修正する児童が増えた。
- (3) 「視点を明確にした振り返り」と「交流活動」を通して、資料の効果的な活用や、筋道の通った文章の書き表し方について互いに確認することができ、「報告する文章を書く」ことができた。

2 課題

- (1) 報告する文章を書く際に調べ学習を計画していたが、計画した時間だけでは十分に調べることができなかったため、単元計画を見直し、教科横断的な視点を生かした指導の工夫が必要である。
- (2) 接続に関わる言葉や文末表現、思考に関わる語句の活用においては、文例や語彙表を提示する等の手立ての工夫や継続的な指導が必要である。

〈参考文献〉

- 沖縄県教育委員会 2022 『令和4年度版「問い」が生まれる授業サポートガイド』
- 井上一郎 2021 『国語科教育の基礎・基本 教え方・学び方ポイントシート 2「話すこと・聞くこと」「書くこと」編』 明治図書出版株式会社
- 三浦剛 2021 『国語授業イノベーションシリーズ 自ら動いて読みを深める フリー交流 6つのバリエーション』 東洋館出版社
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 国語】』 東洋館出版社
- 白坂洋一・香月正登 2020 『「子どもの論理」で創る国語の授業 一書くこと一』 明治図書出版株式会社
- 水戸部修治 2020 『評価規準作成から所見文例まで丸ごと分かる！ 小学校国語新3観点の指導と評価パーフェクトガイド』 明治図書出版株式会社
- 全国国語授業研究会筑波大学附属小学校国語研究部 2019 『子どもと創る「国語の授業」No.65 2019』 東洋館出版社
- 細川太輔・成家雅史 2019 『国語授業アイデア事典 主体的に学習に取り組む態度を育てる！ 小学校国語科振り返り指導アイデア』 明治図書出版株式会社
- 田近洵一・井上尚美・中村和弘 2018 『国語教育指導用語辞典〔第五版〕』 教育出版株式会社
- 細川太輔・北側雅浩 2018 『国語授業アイデア事典 小学校国語科学び合いの授業で使える！「思考の可視化ツール」』 明治図書出版株式会社
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 東洋館出版社
- 水戸部修治・吉田裕久 2017 『小学校新学習指導要領の展開 国語編』 明治図書出版株式会社
- 田村学・黒上晴夫 2013 『教育技術 MOOK 考えるってこういうことか！ 「思考ツール」の授業』 小学館

〈参考 Web サイト〉

- 沖縄県教育庁義務教育課 2022 「沖縄県学力向上 Web」 令和3年度沖縄県学力到達度調査 小学校国語第5学年
<https://okinawa-gakuweb.jp/>（最終閲覧 2022 年 7 月）